

# 会議結果報告書

平成30年3月22日

会議の名称	平成29年度第5回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	平成30年2月22日（金）午後1時30分～3時30分
開催場所	志木市役所 3階 301・302会議室
出席委員	山下和彦会長、鎌田昌和委員、渡部日恵委員、谷合弘行委員、日東明子委員、前野房子委員、小松喜六委員、金敷禎子委員、赤羽尚子委員、小松順子委員、西和江委員、田代健委員、飯田順一委員 (計 13人)
欠席委員	小山博久副会長、谷岡正吉委員、清水正子委員、星野賢委員、木下武三委員、川崎善一委員、大熊啓太委員、濱田好江委員、滝沢麻子委員 (計 9人)
説明員職氏名	清水健康政策課副課長、金澤健康増進センター所長、貫井健康増進センター主査 (計 3人)
議題	(1) 次期いろは健康21プランの策定に係る市民健康意識調査の結果報告について (2) 自殺対策計画策定に係る市民意識調査の結果報告について (3) その他
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)
事務局職員	豊島俊二（健康福祉部次長）、 今野美香（健康福祉部参事兼健康政策課長）、 清水裕子（健康政策課副課長）、志田真由美（健康政策課主幹）、 伴恭臣（健康政策課）、 金澤嘉子（健康増進センター所長）、 貫井なおみ（健康増進センター） 川本静香（オブザーバー）

## 審議内容の記録（審議経過、結論等）

### 1 開 会

議題に入る前に、新たな委員に対し委嘱を行った。

### 2 議 題

#### (1) 次期いろは健康 21 プランの策定に係る市民健康意識調査の結果報告について

事務局および調査委託業者より、市民健康意識調査の概要及び結果、行動目標の評価の説明を行った。

委員長：歩数について、半分以上が無回答のため、どのように捉えるのか考えた方が良さだろう。歩行時間の無回答も多いため、一概に評価することが難しいと思う。評価方法を検討した方が良いのではないか。

委員長：一般市民向け調査の問 20 について、志木市はポリファーマシー、5 種類以上薬を飲んでいる人が全体の約 10% くらい、8 種類以上だと 15% 以上いることになるため、薬対策は必要だろうと考える。回答者の年齢層をみると、70 歳以上が 35% 以上なので、志木市は後期高齢者のポリファーマシーの割合が高いと考えられる。問 24 で、市の健康づくり事業について、知っているけど参加したことがない人が約半数、事業を知らない人が約 3 割いるため、健康教室に係る広報活動、PR がもう一つ足りていないかもしれない。ロコモティブシンドロームの認知度について、知らない人が 6 割と、意外と知られていないということがわかった。今後、減らしていきたい喫煙率をみると、11.4% となっている。歯科治療をみると、そのままにしている人が一定程度いるため、検討する必要がある。「むし歯予防や歯周病予防等について歯科医師や歯科衛生士から指導を受ける機会があれば、受けてみたいですか。」についてみると、「受けない」と「わからない」で約 5 割となっており、関心の低さがうかがえる。中高校生向け調査の問 33 について、教育サポートセンターの相談事業の認知度をみると、83.3% が知らないとなっている。問 34 のアルコール飲料を飲んだことがある子どもが 18.1%、そのうち、この 1 か月間の間にアルコール飲料を飲んだ子どもが 13.2% と予想よりも高くなっている。中高校生の喫煙率も高く、アルコールやたばこに係る教育が必要かもしれない。問 7 の身長・体重について、現行計画の指標である低栄養を BMI20 以下のしてしまうのは見直す余地がある。

委員：BMI の標準範囲が 18.5～25 ということを踏まえると、低栄養を BMI20 以下としている現行の指標は、基準が高いかもしれない。

委員：ポリファーマシーが話題になっていることは知っているが、実際にポリファーマシーを抱えた患者に会ったことはない。

委員：小学生の歯みがきについて、1日3回以上歯を磨いている割合が67.7%であった。志木市は全員磨くことになっているので低いと思う。

委員：親と子どものかかりつけ医が異なる場合がある。

委員：かかりつけの医の定義は調査票に記載されていたのか。

事務局：調査票にはかかりつけ医の定義を示していない。

委員長：かかりつけ医は、市民が思いえがくかかりつけ医を想定して答えてもらうことになっていたため、現在の調査票で実施した。

委員：歩数は自己申告した数値に基づいて高い、低いと議論されているが、この数値が正しいのか疑問である。歩数計を配って、実数を捉えた方が良いのではないか。

委員長：歩数は無回答が多いが、歩行時間になると、やや回答数が多くなっているため、参考にできるのではないか。

委員：たばこについてみると、路上喫煙の割合が多くなっている。市で何か対策を講じているのか。

事務局：対策をしていないわけではないが、今後、強化していく必要がある。

## (2) 自殺対策計画策定に係る市民意識調査について

事務局および調査委託業者より、自殺対策計画策定に係る市民意識調査の概要及び結果を説明した。

委員長：従来の自殺予防に関する取り組みについて教えていただきたい。

事務局：これまでは自殺対策ではなく、こころの健康づくり事業ということで、講演を行ったり、啓発のためのティッシュを配ったり、自殺対策の強化月間として、通勤・通学の人を対象に自殺対策のPRをしてきた。しかし、調査結果をみると、こちらが予想していた以上に、周知が不足していたと思う。若年層には川本先生に力を借りて、子どもたちに SOS の出し方などをレクチャーしているところである。

委員長：今までゲートキーパーは養成されてきたのか。

事務局：対象を絞って養成している。民生委員や教職員などを対象に行ってきた。今年度は中学生の保護者を対象に講義を行った。アンケート結果をみると、身近な人に悩みを相談する傾向が確認できたので、相談されるような立場

の人に焦点を当てて養成できると良いと考える。

委員長：自由記述をみると、アンケートによって救われたとの記述もみられ、この調査自体が有意義であったと考えられる。

事務局：補足すると、そのような回答は主に青少年に多くみられた。

委員：学校を通して調査を実施していない事情を教えてください。

事務局：内容を調査内容等について説明し実施内容を検討した結果、学校を経由しない方法となった。

川本先生：自殺願望がある人は、なかなか人に言えない傾向がある。今回の調査を経て、自分の気持ちと向き合う機会になったことは良かったと考える。新しい自殺大綱をみると、若年層の対策に力を入れることになっている。特に、13～18歳を対象にした調査結果をみると、自殺を本気で考えたことのある人の約4割が自殺を試みたことがあるとなっており、今後、力を入れて若年対策に取り組むべきであると考え。一方、悩みの原因と、自殺を考えた原因がマッチングしていない点があり、今後、計画策定に向けて課題を整理する上で皆さんの協力を得たいと考える。

委員：結果を見てショックを受けている。周囲からの声は聞いていたが、学校と連携して対策を進めた方が良い。

委員：宗教なども役立つのではないか。駆け込み寺のような場の作り方が重要である。

委員：成長した子どもに対して、お母さんが産んで育ててくれたことを伝える教育機会を設けてはどうか。

委員：青少年の結果には驚いた。講演などで命の大切さを教えていくと良いだろう。

委員：13～18歳の調査結果を踏まえると、アルコールやたばこ、自殺対策に係ることが、計画策定に向けて課題となってくるだろう。

委員：運動する場が減っている。今の教室は、既存のグループがいて入りづらい環境になっている。以前は、参加しやすい教室があったが、今はなくなってきた。会費は払っても良いが、安いお金で参加できる教室を増やしてほしい。

委員：これから調査結果をみて勉強していきたい。老人クラブの加入者をみると、身体の衰えがあり、現状維持がやっとなのである。市内で会員が1,500人くらいいるが、なかなか集まりにくくなっている。

委員：食のことが気になるが、朝食を食べている人が増えていて良いと思う。この調査結果をみると、志木市食生活改善推進員の活動の認知度が低く驚い

た。これを受けて、積極的に活動していく必要があると感じた。

委員：今回の調査結果については全体的に前向きに捉えている。以前、「いのちの電話」をとった経験があるが、校長が変わって制度がなくなってしまった。何か対策を講じれば効果が出てくると思う。一部の学校のみで効果を出すことは難しい。

委員：ストレス対処法で乳幼児、小学生の保護者について飲酒が上位になっている。設問の選択肢が少なかった可能性がある。カラオケや散歩などの選択肢があっても良かったと考える。調査票の最後に、悩みを抱えた際の相談窓口を載せると良いのではないか。アルコール摂取量について、青年期の2合以上が3割いる。指標の検討が必要だろう。

委員：噛み応えの指標があっても良いのではないか。歯科検診を充実させたい。

### (3) その他

次回は6月下旬に開催予定である。

## 3 閉会

以上